

大好き！絵本

初瀬 恵美



『だれの せい？』

作：ダビデ・カリ
絵：レジーナ・ルック・
トゥーンベレ
訳：ヤマザキマリ

出版社：
green seed books

気がつけば、もう7月。梅雨も明けて蒸し暑い酷暑がやってきました。

「こんなにひどい地球沸騰化の時代になったのは、いったいだれのせい？」と言いたくなるほど、私たちはついつい「誰か」のせいにしてみたいくなることってありますよね。

そんな「だれのせい？」という傲慢な思いが出发点となっている絵本を今季はご紹介させていただきますこうと思います。

主人公は、とても気高いクマの兵士。「オレさまの剣で きれいなものはない！」と、手あたり次第、何でもかんでも、ザクザクと切り刻んでばかりいました。

クマの兵士は、敵から身を守るために、小さな岩をこしらえてすんでいましたが、ある日突然水が勢いよく流れこみ岩が壊されてしまいました。怒ったクマは、「オレさまの岩を こわしたやつを まっふたつに きってやる！」と水がながれてきたダムへ行きました。そしてダムの門番達を怒鳴りました。「おまえたちだな、オレさまの岩を こわしたのは」と。しかし、門番たちは「せめるんだったら パビルサのやつについておくれよ。あいつがとつぜん とっしんしてきたものだから ぼくらはおどろいて、ダムの水門を しめわすれたまま、にげだしちゃったんだよ。」といいます。パビルサに聞くと、キツネのせいだといい、キツネに聞くとトリたちのせいだといいます。順番に話をきいていくうちに、原因となる犯人にたどり着きました。さて根本的な原因を作ったのは誰だったのか……。

思わず、ハツとさせられる展開、そして原因となった犯人がその後にとった行動とは。すべてが、心の奥深くにつき刺さるような一冊でした。かなりの長文ですが、子どもたちもストーリーに巻き込まれてしまうほど、内容も絵も素晴らしい絵本だと感じています。

この絵本、作者はスイス生まれイタリア育ちで、イタリアで有名な絵本作家さん。絵を描かれたのはエストニア生まれの絵本画家さん。そして、日本にご紹介くださったのは、戸塚貴子さん。この方がどうしても日本で出版したくて、一人出版社「green seed books」を立ち上げて、出版にこぎつけた一冊だったのです。その経緯は、「YouTube くらし文化研究所 ACOMEDIA 「最初の絵本『だれのせい？』誕生秘話！「あの人がステキな理由」green seed books戸塚貴子さん②」」で語られています。私はこの絵本に出会うまで「green seed books」という出版社を知りませんでした。そこでどんな出版社が調べていたらこのYouTubeに出会うことができてきました。絵本好きの方、ご興味があるにおすすめです！戸塚さんの熱い思いや絵本出版秘話を沢山聞くことができて、面白いですよ！

また訳をされた方のお名前を見て「？・・・もしかしてあのヤマザキさん？」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。私もそう思った一人です。実は、翻訳をされた方は漫画『テルマエロマエ』を代表作とするヤマザキマリさん。ヤマザキさん自身初の翻訳作品だそうです。とても読みやすく、さすがイタリア在住！そして言葉にも長けての方が日本語訳する絵本は、心に響くなーと思います。絵本の最後には「クマの兵士の勇気に触れて」と訳者あとがきもあるんですよ。「わたしたちは思い通りにならないことを受け入れるのが不得意です。」から始まるこのあとがき。この一文ですら多くの人をひき付ける魅力を持っているとおもいませんか？あとがき全体もまた心に響く文章となっています。

作者だけでなく、いろんな方のいろんな思いが詰まったこの絵本。現代の私たちに深く考えさせる機会を与えてくれると思います。この夏、お子さんと一緒に海外の素晴らしい絵本に触れてみてはいかがでしょうか。大人の方にもおすすめの一冊です。